

『あたりまえではない“今”』

島根県

島根県立出雲高等学校 三年

安食 優良

私は中学生の時も「命の大切さを学ぶ教室」の講演を聴いたことがありましたが、数年経ち今回の講演を聴いて、改めて命の重みやあたりまえはあたりまえではないことを感じました。江角さんのお話や当時のニュース映像を聴き、大切な人を突然理不尽に失うことは、私たちには想像できないくらいつらく苦しいことだと思いました。私がもし大切な家族や友人の命を理不尽に奪われたら、絶望して立ち直れないかもしれません。しかし、江角さんはこのような講演を続けておられ、理不尽に命を奪われてしまった方々の思いを伝え続けていて、信念を感じました。

真理子さんをはじめ三人の尊い命が奪われた事件について話を聴いて印象に残っているのは、「三人の命だけ奪ったわけではない」という言葉です。お三方はまだ二十歳という若さで命を奪われました。まだまだやりたいことがたくさんあったと思います。なのに、飲酒運転の車に衝突され、その願いが断たれてしまった。自分の夢を仕事にしたり、結婚して家族をもったり、子どもを育てたりすることができなかった。この苦しみを言い表す言葉がみつかりません。「三人の命が奪われたということは今後生まれてくるかもしれない子どもたちの命をも奪ったということだ」というお言葉から命の重み、尊さを改めて感じました。それなのに、加害者はたった数年の懲役で、再び人生を歩んでいく。こんなことが許されていいのか、と思いました。命よりも大切なものはないと思うので、その尊い命を奪った加害者たちはどんな理由があろうと許されてはいけません。

今生きていることは、あたりまえではない、ということも私も日々感じています。私は持病の再発が悪化し、一時心肺停止となり、生死をさまよった経験があります。その時私は病院に入院していたのですぐに治療を受けることができ、生き延びることができました。しかし、交通事故はいつ、どこで遭うのか分からないので、高度な治療をすぐにうけることができませぬ。私は心肺停止となる一日、二日前に入院していたので助かりましたが、それよりも後に入院していたら、私は助かっていないでしょう。今回の講演も聴くことができなかったでしょう。だから、今、生きていて毎日学校に通ったり、ご飯を食べべたり、大切な人たちと話したりできることはあたりまえではない、奇跡であるということをよく分かります。しかし、今回のお話を通してその思いがよりいっそう強くなりました。勉強や人間関係、家庭環境など悩むことは尽きないけど、それでも生きて、辛かったり苦しんだりしたら助けを求めて、生かされたこの命を大切にし、精いっぱい生きたいと思いました。

私たち高校生の一歩身近にある事件は交通事故やいじめだと思っています。私たちの移動手段の一つに自転車があります。自転車同士、自転車と車、自転車と歩行者など自転車に乗っていると自分が加害者にも被害者にもなってしまう可能性があります。今まで以上に気を

つけて運転したいと思いました。そして、いじめは自殺につながる可能性があります。幸い、私の周りではいじめは起きていませんが、いつどこで起きるか分からないので、いじめを止めることのできる人間になりたいと思います。

命あるものには限りがあり、私たちもいつか死んでしまいます。しかし、その“いつか”が、明日になるかもしれないし、もっと先かもしれない。自分じゃなくて、家族や友達かもしれない。そのことを忘れず「今」という時間を大切にして生きていきたいと思います。

今回は「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、私たちに講演をしてくださって、本当にありがとうございました。